

「図書のみち阿南」構想

令和8年3月
阿南市教育委員会

目次

I:背景	1
II:「図書のみち阿南」構想とは	2
III:主な課題	3
IV:阿南中央図書館(仮称)の整備	4
V:那賀川・羽ノ浦両図書館の進化	5
VI:「あなん『読書テラス』ネットワーク」の構築	6
VII:「機能進化」と「財源確保」は並び立つものに	7
VIII:意見募集結果	8
①地区別回答者数	8
②年齢別回答者数	8
③設問1『「図書のみち阿南」構想について』への主な意見	9
④設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について』への主な意見	10
IX:市民説明会での意見	12
X:これまでに提出されている要望書	13
①これまでに提出されている要望書	13
②要望書内の「市民の声」	14
XI:「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて	15
①阿南中央図書館(仮称)の整備	15
②那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方について(案)	16
③「阿南『読書テラス』ネットワーク」の構築	26
XII:課題の解決に向けて	27
XIII:まとめ	28

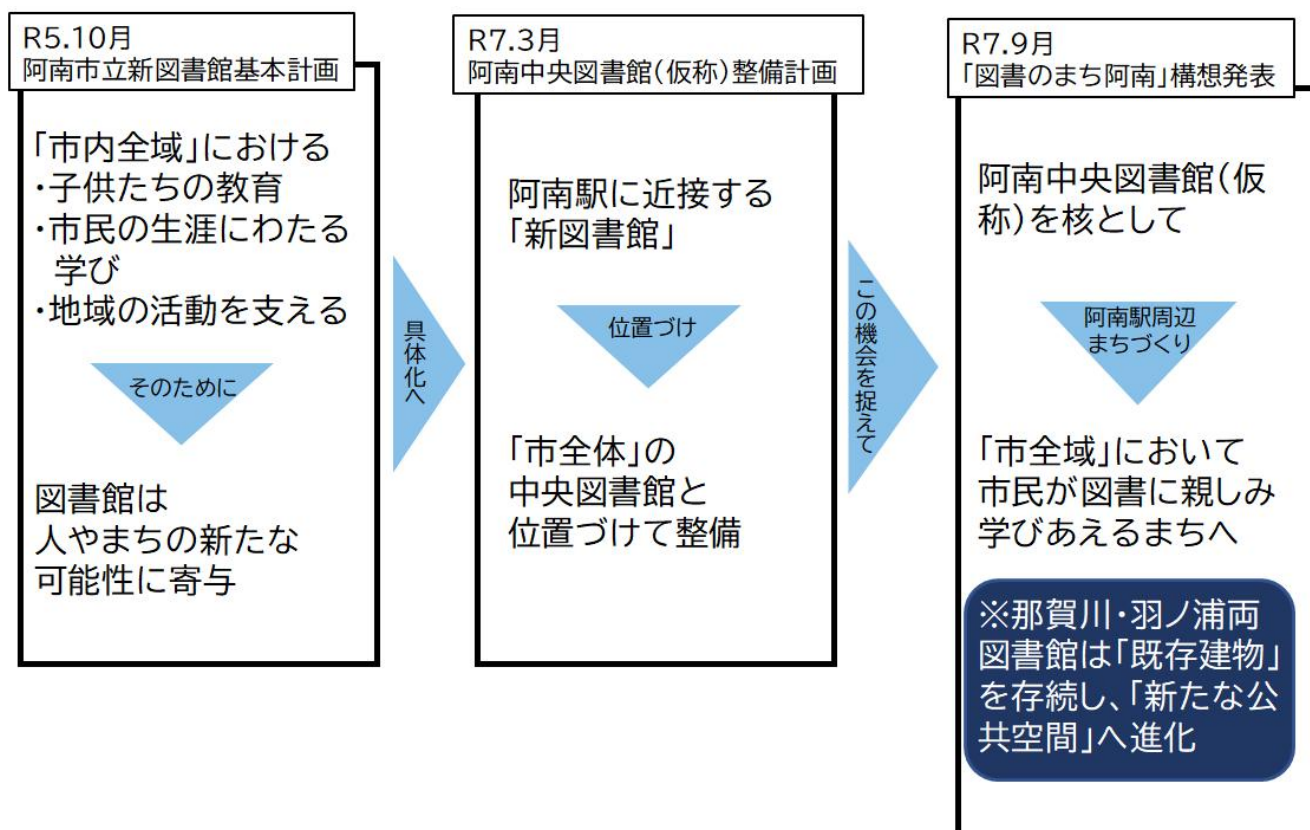
I 背景

「図書のまち阿南」構想は、これまで「阿南市立新図書館基本計画」や「阿南中央図書館(仮称)整備計画」など、ここ数年来、連綿と続け重ねてきた知見を最大限活かすとともに、市長部局と教育委員会が緊密に連携し、協議を続け、その積み重ねをカタチにしたものです。

本構想の背景として、令和5年10月に策定した「阿南市立新図書館基本計画」では、阿南市内全域における「子どもたちの教育」、「市民の生涯にわたる学び」、「地域の活動を支える」、そのために、図書館は人やまちの新たな可能性を開くことに寄与すると明記されています。また、基本計画を具体化するため、令和7年3月に策定した「阿南中央図書館(仮称)整備計画」では、阿南駅に近接する新図書館は、阿南市全体の中央図書館と位置付け、整備を推進するとしています。

現在、阿南中央図書館(仮称)の整備に向けて、基本設計を進めています。このときを捉え、改めて、これまで市として検討してきたことや市民の皆さまからいただいた意見を取りまとめ、「図書のまち阿南」構想として公表します。

本構想では、阿南中央図書館(仮称)を核として、阿南市全域において、市民が、いつでも誰でも気軽に集い、図書に親しみ、学びあえる、まちづくりを目指しています。また、那賀川・羽ノ浦両図書館は、既存施設を存続し、「新たな公共空間」へと進化させてまいります。



Ⅱ 「図書のみち阿南」構想とは

目的

本構想では、市民の皆さまの図書館利用や読書活動をはじめとした、公民館活動や小中学校における読書活動、読書会の活動、おはなし会の活動など、市民の皆さまが培ってきた「阿南の図書文化」を進化させながら、将来世代へ引き継いでいきます。

具現化策

本構想実現の具現化策として、新設される阿南中央図書館(仮称)を核として、那賀川読書テラス(仮称)(現 那賀川図書館)、羽ノ浦読書テラス(仮称)(現 羽ノ浦図書館)はもとより、公民館や地元書店等と協働し、阿南市全域における「あなん『読書テラス』ネットワーク」を構築してまいります。

「図書のみち阿南」構想の新たなる推進

～みんなが集う読書のみちづくり～

「あなん『読書テラス』ネットワーク」 (イメージ図)



現在、「図書のみち阿南」構想を推進するにあたり、様々な課題があります。

課題の解決のためには、関係者の知恵と工夫を持ち寄り、見直しや進化を検討する必要があります。

1 公共施設の最適化

全国の自治体では、高度経済成長期から急激な人口増加や住民のニーズに応じて、多くの公共施設整備が進められてきました。現在、その当時に建設された公共施設の築年数は30年以上を経過しています。

これから大量更新の時期を迎え、老朽化する公共施設に係る建て替えや改修などの更新費用も増加することが予想される中で、人口減少の進行を見据えた公共施設のあり方として、施設数・規模等の検討を進める必要があります。

2 図書館に関する「限られた資源」の有効活用

- ・ひと ⇒ 司書の配置のあり方
- ・モノ ⇒ 蔵書の整備のあり方
- ・情報 ⇒ ICT化の推進、電子書籍の更なる活用

まず、ひとの課題として、図書館司書の配置のあり方があります。現在、那賀川・羽ノ浦図書館の2館と市役所庁舎内にある図書館カウンターに分散している専任職員の司書、事務職、移動図書館車の運転担当を阿南中央図書館(仮称)整備後には、新図書館に集約し、図書館運営の基幹部分、選書やレファレンス、他市町村の図書館との連携等を直営で行う予定です。

次に、モノの課題としては、蔵書の整備のあり方があります。阿南中央図書館の収容可能冊数は26万冊であり、この開架室の本棚を埋めるためには、新しく資料を一定数購入したとしても、那賀川・羽ノ浦図書館からそれぞれ5~10万冊を移管し、蔵書の整備充実を図る必要があります。

また、情報の課題として、ICT化・デジタル化の推進があります。現在の図書館システムは使用開始から20年近く経っており、古くなっていることから、新図書館供用開始時には、ICタグを利用できる新しい図書館システムの導入が必要です。さらに書籍の電子化が進んでいることから、阿南市電子図書館の電子書籍数を増やし、活用をこれまで以上に進めていく必要があります。

3 図書館固有の課題

阿南市立図書館は、非常に利用の多い図書館ですが、図書館の貸出カードが使用できる状態を示した有効カード登録率は約15%であり、その登録率をさらに増やしていく必要があります。そのためには、これまで以上に、より多くの市民に利用される施設への進化が必要となります。

また、既存図書館の老朽化についても対策が必要です。那賀川・羽ノ浦両図書館は、30年経過により、抜本的な長寿命化対策が不可欠となっています。

4 阿南中央図書館(仮称)建設費(約40億円)の財源確保

新図書館建設にあたっては、国の補助金や地方債を活用することが不可欠であり、これらにより、最大約29億円の国の支援が見込めることを、市民の皆さまにご理解頂くことが必要となります。

IV 阿南中央図書館(仮称)の整備

1 主なコンセプト ～「図書のみち阿南」の核(中央テラス機能)として整備～

阿南中央図書館(仮称)の主なコンセプトは次のとおりです。

①まちづくりの拠点をつくる

・阿南駅前周辺まちづくりの一環として、新たな賑わい創出の拠点に

②多様な居場所をつくる

・ここに来るだけで様々な活動・人に出会える、あらゆる世代が活躍できる、多様な居場所に

③まちの資産をつくる

・環境性能に優れ、誰もが使いやすく維持管理しやすい、市民に永く愛される図書館に

2 主な財源

- ・国補助金:都市構造再編集中支援事業
- ・地方債:公共施設等適正管理推進事業債

阿南中央図書館(仮称)の整備にあたっては、主な財源として、国からの支援となる「都市構造再編集中支援事業」と「公共施設等適正管理推進事業債」の集約化・複合化事業を活用することで、市の負担を可能な限り平準化及び逡減を図ります。

国からの支援を活用する要件として、新しい施設が供用されてから、5年以内(または立地適正化計画に位置づけられている場合は10年以内)に、集約化・複合化の対象となった施設を「廃止」することが必要となります。

この「廃止」とは、集約化・複合化の対象となった施設の「機能を廃止」することを意味しており、例えば、機能を見直した上で、当該施設を貴重な資産として有効に活用することは認められています。

また、「国補助金」、「地方債」ともに、その有効活用にあたっては、「機能見直し」及び「複合化」が必須条件となります。

1 両館がさしかかっている局面

那賀川・羽ノ浦両図書館については、阿南中央図書館(仮称)の整備や両館の老朽化対策の必要性から、次のような局面にさしかかっています。

- ・阿南中央図書館(仮称)の整備にあたり
⇒両館の役割をはじめ、「新たなあり方」を検討すべき局面
- ・両館の老朽化対策の計画を立てるにあたり
⇒ハード・ソフトの両面から「今後のあり方」を検討すべき局面

2 進化の基本方針

那賀川・羽ノ浦両図書館がさしかかっている局面を踏まえて、両図書館の進化の基本方針として、既存施設は存続した上で、一つ目は「残す機能」、二つ目は「見直す機能」、三つ目は「新たに導入する機能」の三つの観点から施設を見直すことで、市民の皆さまにより活用される新たな公共空間への進化を目指します。



既存機能（那賀川・羽ノ浦両図書館）を進化させる「3つの観点」

①残す機能

- ・読書機能
- ・ブラウジング機能
(くつろぎの空間)

②見直す機能

- ・開架スペースの見直し
- ・お話しスペースや
自習スペースへの進化

③新規導入の機能

- ・多世代交流空間
- ・インドアパーク
(雨天時でも遊べる)

VI 「あなん『読書テラス』ネットワーク」の構築

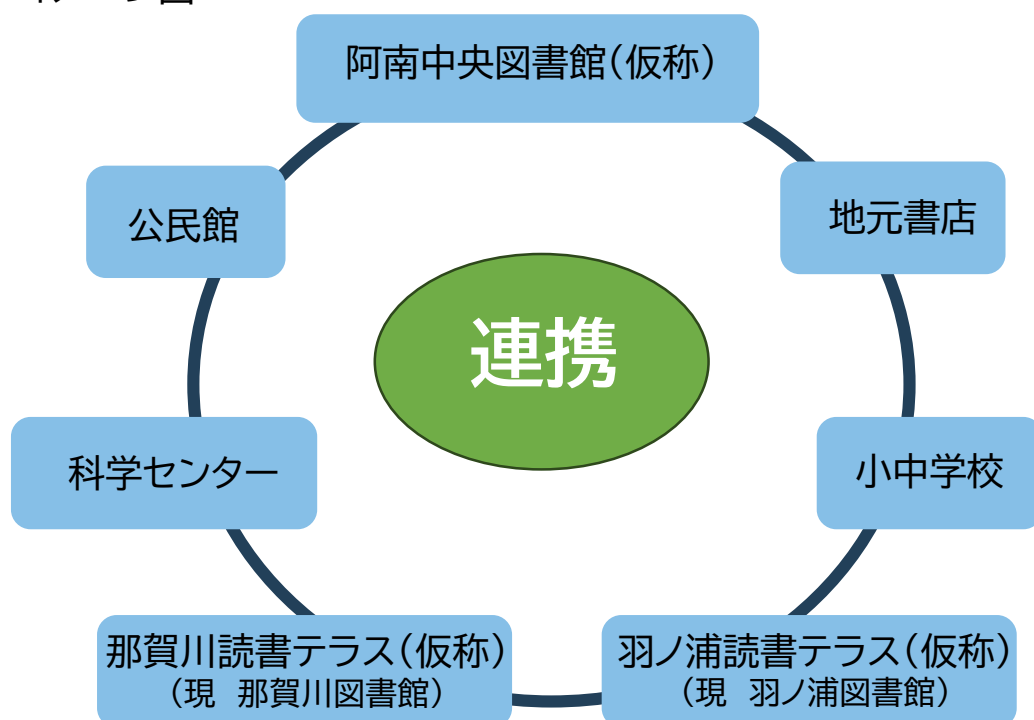
読書テラスネットワークとは ～「図書のみち阿南」の具現化に向けて～

「阿南市立新図書館基本計画」では、新図書館が市内図書館や移動図書館だけでなく、学校図書館、公民館図書室など、図書に関する多様なサービスのネットワークを支援することとしています。

本構想では、このサービスのネットワーク化を通じて、「図書のみち阿南」を具現化していきます。

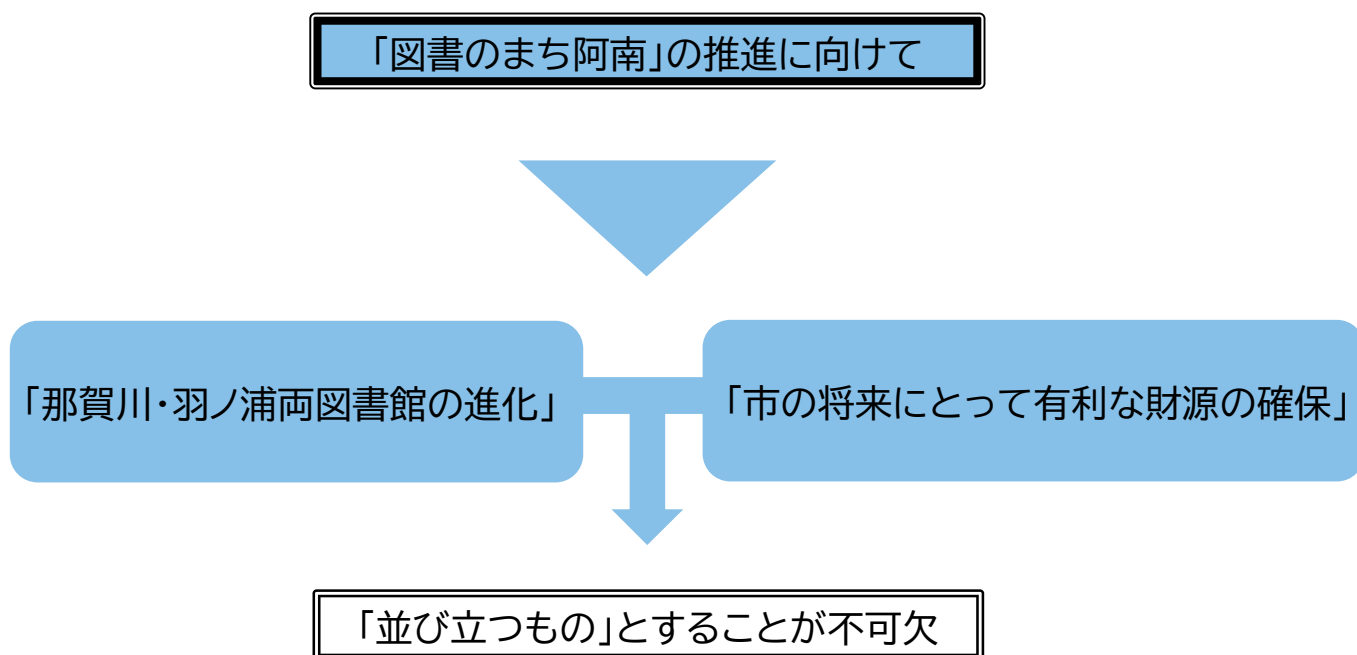
阿南中央図書館(仮称)をはじめとして、公民館や科学センター、地元書店などの協働や、市内小中学校等との連携により、各施設がそれぞれ工夫を凝らし、持ち寄ることで、市民がいつでも、誰でも気軽に集い、図書に親しみ学びあえる、本市ならではの『施設連携型のネットワーク』を構築することで、読書環境の整備を進め、市民の皆さまがより一層図書に触れる機会を創出します。

イメージ図



VII 「機能進化」と「財源確保」は並び立つものに

「図書館のまち阿南」構想の推進に向けては、3ページに挙げた様々な課題を解決する必要があります。これらの課題を解決するためには、「那賀川・羽ノ浦両図書館の進化」と「市の将来にとって有利な財源の確保」を皆さまからいただいたご意見やご要望を本構想に反映することで、「並び立つもの」とすることが不可欠です。



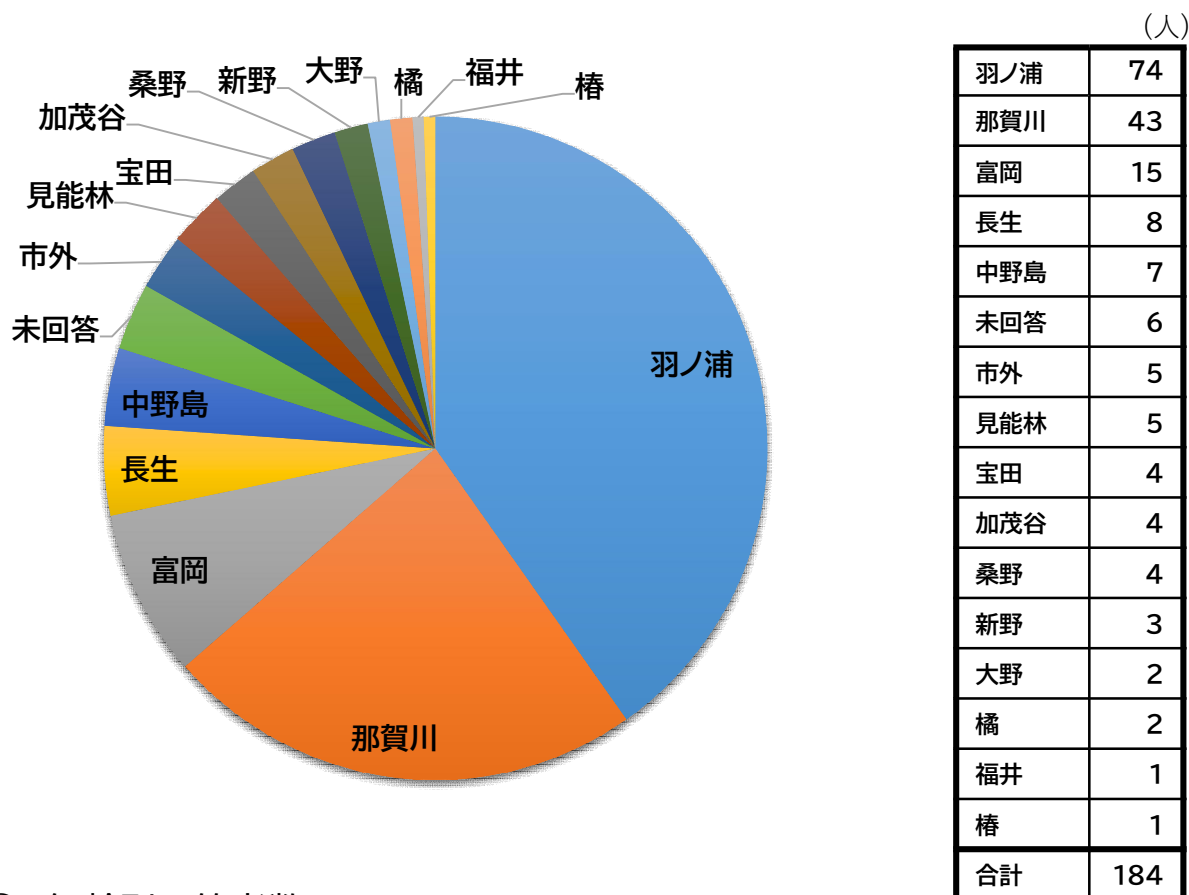
Ⅷ 意見募集結果

「図書館のまち阿南」構想及び那賀川・羽ノ浦両図書館の今後のあり方について、令和7年10月から11月にかけて、市民の皆さまからの意見募集を行いました。

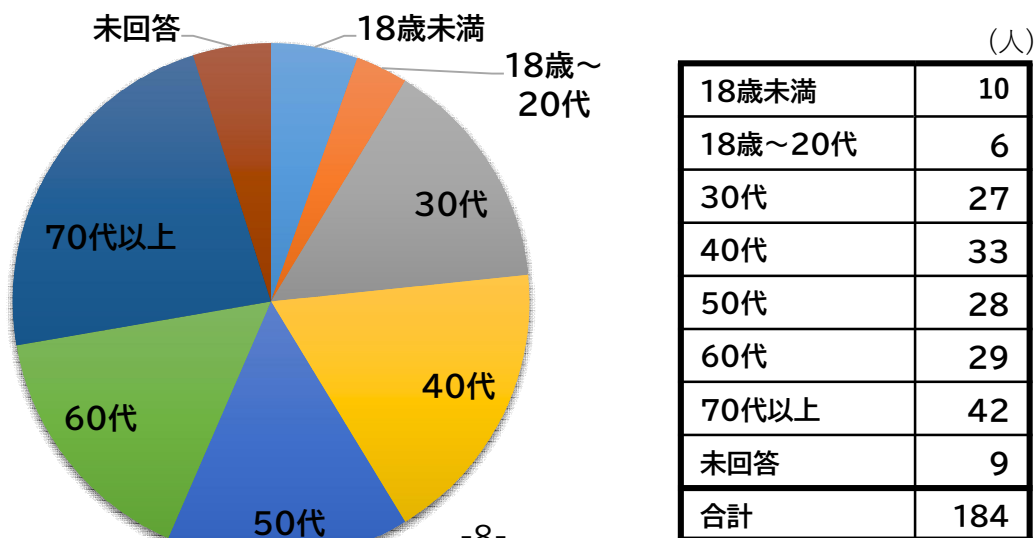
今回の意見募集では、設問1『「図書館のまち阿南」構想について』、設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について』として、地域や世代を問わず、市民の皆さまから184件の様々なご意見やご要望をいただきました。

また、いただいたご意見につきましては、市ホームページにて公開しています。
[\(https://www.city.anan.tokushima.jp/docs/2026012800016/\)](https://www.city.anan.tokushima.jp/docs/2026012800016/)

① 地区別回答者数



② 年齢別回答者数



③ 設問1『「図書のみち阿南」構想について』への主な意見

設問1については、「本構想を積極的に推進してほしい」とされる意見が24.5%、「入念に検討してから推進してほしい」とされる方が約26.6%でした。

積極的に推進してほしい

45人/184人 24.5%

- ・出生率の低さを踏まえると、10年先、20年先を見据えた政策にすべきなので、3つの施設はそれぞれ特徴のある施設で良いと思います。図書館を3つとも残すということは未来の阿南市民への負担を大きくしてしまいます。
- ・阿南市の将来を見据えた未来志向の構想であり、持続可能で豊かな学びができる阿南の実現に向け、是非ともこの構想を推進していただきたい。
- ・ネーミングもコンセプトも良いと思っています。自転車や歩きでふらっと行ける場所に本があったらと思うので、町の図書室があれば嬉しいです。
- ・ボードゲームや将棋など、大人から子どもまで楽しみ楽しめる様な施設があってもいいと思う。
- ・子供が遊べるスペースを施設内に設けて、子どもが遊んでる間に親達が本を読んでリラックスできるようなしたらみんなの行き来があって良いと思う。
- ・高松駅にあるツタヤラウンジのように、飲食をしながら本を読める居心地のいいスペースを作って欲しい。
- ・図書館は今の時代に即した新しい形に変わるべきです。

入念に検討してから推進してほしい

49人/184人 26.6%

- ・(構想について)それはそれで良いと思うが、貸出のできる図書館が1館になるのは絶対に困る。図書館のおかげで本の購入費など大変助かっているし、3館あるおかげで距離的にも助かる。
- ・図書のみち阿南の構想は、既存の那賀川図書館、羽ノ浦図書館、新設の阿南図書館の三館を軸にしたものにして下さい。
- ・市民が読書に親しむ機会を増やすことは良いが、市内の図書館を1つに集約するのでは、むしろ読書の機会が減り、移動手段の少ない子どもには不便でしかない。
- ・是非進めて欲しいが民間委託などにして阿南市の負担軽減は出来ないのか？
- ・図書のみち阿南と言う構想はいいと思います。それであれば中心部に大きな図書館を1つに集約するのではなく那賀川図書館、羽ノ浦図書館も継続して図書館としての機能も持たせつつ阿南市民が気軽に図書館に通えるような仕組みを継続して作っていくのが良いと思います。
- ・構想そのものについては特に反対するものではありませんが、見方を変われれば「阿南市市街だけ先んじてまちづくりを行い、羽ノ浦・那賀川地区は後回しにされているのでは？」という事を考える人が出てきてもおかしくないと思います。

④ 設問2『那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方』への主な意見

設問2では、那賀川・羽ノ浦図書館の「存続」を望む意見が56.5%、「一部進化」を望む声が19.0%、「大幅進化」を望む声が10.9%でした。

存続(機能存続含む)

104人/184人 56.5%

- ・羽ノ浦・那賀川を図書館として絶対残して欲しい。
- ・那賀川・羽ノ浦図書館は今ままで残して欲しい。今後、年を重ねた時に移動できる交通の方法がなくなるので、近くで行ける所に残して欲しい。
- ・今までどおり司書さん、読み聞かせ機能、貸出をしてほしい。子どもたちの居場所をなくさないで欲しい。
- ・規模の縮小等はやむを得ないかも知れないが、貸出業務の廃止とならないような配慮をお願いしたい。
- ・両図書館にも司書を置いて図書館の機能を持たせてほしいです。
- ・既存の図書館をなくすのは止めてほしい。近場に図書館がなくなり、さらに本を読む機会が減る。
- ・本を借りられる場所は、羽ノ浦、那賀川にも残してほしいです。
- ・羽ノ浦図書館貸出し利用しています。たいへんありがたく思っています。こちらでの貸出しぜひ続けてもらいたいと思います。
- ・図書の出借機能を残すよう強く要望します。
- ・近くに図書館があるのでよく助かっています。気軽に通えます。

一部進化

35人/184人 19.0%

- ・勉強をする環境も「静かな場所」「ちょっと音がある場所」「賑やかな場所」と人によって、『やりやすい環境』は違います。読書テラスについても同じで様々なニーズに応えるカタチにして欲しい。
- ・読書テラスになったとしても、貸出・返却・予約・取り寄せは可能にしてください。(市役所の図書カウンターと同様の機能)
- ・これまで両館を使ったことのない市民や、これからのDX時代を生き抜く若者世代の意見をよく聞き、今後のあり方に反映してほしい。
- ・もっと楽しい優しい雰囲気 of 図書館にして欲しい。
- ・民間委託等をしてサービス向上やコストの削減。
- ・図書館の施設を利用してのイベントを増やす。
- ・現在の図書館を細分、改装に経費をかけず、現状で素敵に活用できる方策を考えましょう。例えば庭のある那賀川は、こどもの本を。羽ノ浦では、文芸や作家の育成をテーマにするなど特化してはいかがでしょうか。また、少なくとも建物を管理運営するスタッフを配置するのであれば、専門的な民間団体に委託し、市民とともに活用できるよう考えるのはいかがでしょうか。

大幅進化

20人/184人 10.9%

- ・那賀川図書館については、耐用年数はわかりませんが、スペースも広く・立派な建物であり補修をしながらの存続を希望します。羽ノ浦図書館については、耐用年数も近いと聞いています。建て替え時には羽ノ浦支所・公民館・図書館等の複合施設の建設を希望します。
- ・子供や保護者が喜んで利用できるような施設にしてほしい。
- ・子育て広場や、学童保育、などのスペースを作って欲しい。
- ・那賀川図書館にある広い庭園を有効活用して下さい。例えば、園内に幼児が喜ぶ、遊べる噴水を新設するとか、幼児用のプールとか、ウォータースライダー、日陰の休憩所を設置し、例年の猛暑を親子で楽しく乗りきれぬ工夫をして、クーラーの効いた園内の幼児用の図書コーナーと結びつけて、子育てのしやすい阿南を作って下さい。
- ・市or民間の管理費を負担できる程度の営業をやりながら図書、学習、各種イベント会場、防災用の避難場所としてのスペースとして活用。
- ・那賀川図書館については広い庭があり子ども向けのイベントやアニメイベントをして欲しい。
- ・室内で遊べる空間や子育て世代の交流の場にするのがいいと思う。

大幅進化(具体例)

- ・子育て広場や学童保育などのスペース、学習館や子ども館といった専門館
- ・子育て施設、保育施設
- ・市民の憩いのコーナー(飲食可能なスペース、声を出してもいいスペース)
- ・屋内遊び場
- ・防災機能
- ・コワーキングスペース
- ・フリーWi-Fiや自習室で使用するパソコンの貸し出し
- ・eスポーツ、ボードゲームの導入
- ・飲食、本、絵本、知育玩具、ボードゲーム、トレカ、雑貨などの物販
- ・羽ノ浦支所・公民館等との複合施設
- ・ロボット教室、プログラミング教室、英会話教室など教室の開催
- ・マルシェなど招き入れて活気のある場所作り
- ・那賀川図書館については、広い庭での子ども向けのイベントやアニメイベント

本構想を市民の皆さまに説明するために、令和7年11月22日に那賀川図書館、11月23日に羽ノ浦図書館において、市民説明会を開催しました。

11月22日の那賀川会場には41名、11月23日の羽ノ浦会場には53名の方にご参加いただき、様々なご意見やご要望をいただきました。

また、令和8年1月28日には那賀川図書館において、『「図書のみち阿南」構想の具現化に向けて』と題して、説明会を開催し、24名の方にご参加いただきました。

市民説明会での主な意見①

R7.11.22:那賀川会場 出席者41人
R7.11.23:羽ノ浦会場 出席者53人

- ・那賀川・羽ノ浦両図書館のこれからの姿の具体案を示してくれた方が市民の意見や提案を出しやすい。
- ・現在、市役所にある図書館カウンターは図書館という位置づけから外れているが、貸出を行っている。最低でも、図書館カウンターを残しますと言ってもらったら安心できる市民は多いのではないか。
- ・意見募集の意見だけでなく、説明会で出た意見も構想に反映してもらいたい。
- ・図書館の機能の廃止とは貸出やレファレンス機能が廃止されるということなのか。
- ・合併協定は永続的なものとは考えていないが、子育て世代は教育に関心が高く、図書館の需要は高まっている。
- ・書架スペースの見直しは、本の面出し等で活用できないか。
- ・新図書館の基本・実施設計が進んでいるが、3月議会では「大幅な見直し」の1言だけに説明になっている。これは説明が不十分でないか。
- ・3つの機能をもっと具体的に知りたい。図書館の自習室は静かにしなければいけない。音を出してもいいような工夫があってもいいのではないか。
- ・クラウドファンディングやふるさと納税、寄付による財源の確保の検討もしてもらいたい。

市民説明会での主な意見②

R8.1.28:那賀川会場 出席者24人

- ・阿南中央図書館(仮称)へ那賀川図書館、羽ノ浦図書館の蔵書を移管するのは反対である。
- ・図書館の分館を設置している市町村は全国に多くある。阿南市は面積が広いからこそ、図書館の分館を配置するべきではないか。
- ・施設の維持管理に係る財源はどうするのか。
- ・国の補助金を得るために、那賀川図書館、羽ノ浦図書館を集約しようとしている今の計画を見直してほしい。
- ・何年かかってでも、ゆっくりと議論を進めるべきでないのか。
- ・自力で図書館に行けない人のために、近くの図書館を残してほしい。
- ・再度、市民の意見を募集してもらいたい。
- ・開架している図書、司書の配置を残し、図書館を存続させてほしい。
- ・那賀川図書館、羽ノ浦図書館の改修費用はどの程度を想定しているのか。
- ・既存の図書館を中央図書館とする考えはないか。
- ・カウンター方式では、蔵書を借りられなくなるのではないか。

X これまでに提出されている要望書

本構想を発表した後、市に対して「那賀川・羽ノ浦図書館を今後とも図書館司書の配置された貸出ができる図書館として維持してほしい」、「中央図書館の建設については、国の補助金や起債を十分に活用してほしい」、「現行2館の統廃合については、地域特性と多様な市民ニーズを踏まえて検討してほしい」といった要望や、那賀川・羽ノ浦図書館の存続を求める署名が提出されました。

① これまでに提出されている要望書

阿南の図書館を考える会(10月2日提出)

「図書のみち阿南」に関する要望書

概要:「那賀川・羽ノ浦図書館を今後とも図書館司書の配置された貸出しができる図書館として阿南市直営で維持して行くこと」

「阿南中央図書館(仮称)は、那賀川・羽ノ浦両図書館と並列の施設となる規模での開館」などを要望

阿南市図書のみち構想考える会(10月31日提出)

阿南市新中央図書館に関する予算及び現行2図書館施設の再活用に関する要望書

概要:「新中央図書館の建設については、国の補助金や起債を十分に活用」

「現行2館の統廃合については、地域特性と多様な市民ニーズを踏まえた再構築・再活用という柔軟な発想での対応」

「図書のみち構想の実現に向けての推進」などを要望

阿南中央図書館(仮称)開館後も羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会(10月1日中間報告、11月27日提出)

「羽ノ浦・那賀川図書館存続を求める署名」および「市民の声」について

概要:「羽ノ浦・那賀川図書館存続を求める署名」および「市民の声」の提出

那賀川町の読書テラス構想の新機能を考える会(11月28日提出)

那賀川図書館 子育て世代中心の施設変更に関する要望書

概要:「屋内遊具の設置」、「屋外スペースの充実」、「子育て支援イベントの開催」、「ファミリー層が過ごしやすい環境整備」などを要望

② 要望書内の「市民の声」(一部抜粋)

- ・新図書館の開館時には、那賀川・羽ノ浦図書館は規模は縮小されて分館化しても、今まで通り身近な図書館として日常に利用できることと当然のように思っていました。
- ・阿南に新しい図書館ができることを楽しみにしていましたが、那賀川と羽ノ浦の図書館が無くなるかもと聞いて驚きました。家の近くで気軽に本を読める環境を減らされては困ります。
- ・手軽に多種の本にアクセスできる場所が減ることは子どもたちや地域住民にとって損失だと思う。
- ・誰もが利用しやすい施設であり、今あるコミュニティは大事にしてもらいたい。子どもだけでも行けるような施設は図書館しかない。
- ・図書館は地域にとって気軽に教養を高め、人生を豊かにできる場所でもあるので、地域の住民にとってはかけがえのない存在です。
- ・地元の財産です。どうか次世代まで残してください。
- ・各館の特性を活かし、地域ニーズに応じたテーマ・利用者層別の施設整備を行ってほしい。
- ・現行2館の施設整備変更に加え、新たな機能を追加することで、世代交流・地域交流・学び・遊び・経済的視点が融合した複合型施設にしてほしい。
- ・ファミリー層が過ごしやすい環境整備をしてほしい。

1 阿南中央図書館(仮称)の整備

阿南中央図書館(仮称)の基本的な方向性としては、図書館機能と複合機能を一体的に整備し、幅広い世代の多様な利用やニーズに応え、市の生涯学習の拠点となる図書館サービスの提供を目指し、令和12年度供用開始に向け事業を進めています。

また、「図書のみち阿南」構想の核となる中央テラス機能として整備を行います。

プロポーザル審査にて採択された
新図書館イメージパース及び基本イメージ

新しい図書館建設は、阿南駅周辺エリア活性化のファーストステップとなる重要なプロジェクトであると考えます。

私たちは、市民の皆さんの声を聞きながら、その大きな期待に応える、まちの誇りとなる建物を目指したいと思っております。

誰もが立ち寄りやすい大きな広場を中心に、多世代が思い思いに様々な活動を楽しむことができ

新たなつながりの起点となる、賑わいと学びの交流拠点をご提案します。



みんなの居場所となりまちをつなぐ図書館

01.まちづくりの拠点をつくる

阿南駅周辺まちづくりの中核であり、東西市街地の連携強化につながる、新たな賑わい創出拠点と位置付けます。

広場・図書館・地域交流センターが連携した市民の多様な学びと活動の場を形成します。

02.多様な居場所をつくる

子に読み聞かせる人、読書に集中する人、友と語らう人、広場を駆け回る子、司書に相談する人。

ここに来るだけで様々な活動・人に出会える、あらゆる世代が活躍できる、多様な居場所をつくります。

03.まちの資産をつくる

次世代に受け継ぐことができる公共資産として、環境性能に優れ、誰もが使いやすく維持管理しやすい、市民に永く愛される図書館を目指します。

2 那賀川・羽ノ浦図書館の新たなあり方について(案)

那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方については、市民の皆さまの意見や要望を可能な限り反映すると共に、本構想の推進に必要な財源の確保を並び立つものにするを基本スタンスとして検討を行います。

3つの観点のコンセプトとしては下記の通りとし、各観点ごとに検討を行います。

各観点ごとのコンセプト

- ①残す機能：意見募集で残して欲しいと意見が多かった、「貸出機能」・「司書(レファレンス機能)の配置」・「読み聞かせ機能」等に関しては、可能な限り機能を存続できるように検討する

- ②見直す機能：図書館の限られた資源である蔵書の一部を新図書館に移管することで生じる書架スペースの空間を見直し、有効活用することで、「自習スペース」等の利便性の拡充を図る

- ③新たに導入する機能：市民の皆さまの意見や要望を反映すると共に、「読書テラス」として有する「読書機能」等と連携できる機能の導入を検討することで、より多くの市民が利用できる公共空間の形成を図る

① 残す機能

意見募集で残して欲しいと意見が多かった、「司書の配置(レファレンス機能)」・「貸出・返却・予約機能」を市役所庁舎内にある「図書館カウンター」方式に習い、「読書テラスカウンター」を導入することで可能とします。

- ・所在施設 ⇒ 存続 ※貴重な資産として有効活用
 - ・読書機能 ⇒ 存続 ※引き続き読書できる空間は維持
 - ・おはなしコーナー ⇒ 存続 ※面積拡大等利便性を拡充し存続
 - ・新聞、雑誌コーナー
 - ・ブラウジングスペース
 - ・司書の配置(レファレンス機能)
 - ・貸出・返却・予約機能
- 存続 ※読書テラスにふさわしい場所として存続
- 存続 ※好評価が多い「図書館カウンター」方式を導入
- ・司書(レファレンス機能)
 - ・貸出・返却・予約機能

② 見直す機能

見直す機能は、書架スペースを見直すことで、自習スペースの拡充やWi-Fi環境の整備により、自習スペースの利便性の拡充を図ります。

また、資料の収集・保存機能は、阿南中央図書館(仮称)へ集約することで、より効率的な運営を図ります。

- ・書架スペース
 - ・自習スペース
 - ・情報発信機能
- 書架スペースを見直すことで
- ・自習スペースの利便性の拡充(自習スペースの拡充、Wi-Fi環境の整備、電源の確保)
 - ・情報発信機能の拡充(チラシ・パンフレット等を設置するスペースの拡大)
 - ・「歴史コーナー」、「絵本コーナー」など「テーマ別読書コーナー」の設置
- ・資料の収集・保存機能 ⇒ 阿南中央図書館(仮称)へ集約

貸出機能

「図書館カウンター」方式を導入することで

- ・図書の貸出・返却・予約が可能
- ・司書の配置とそれによるレファレンス機能により読みたい本の検索・予約・貸出が可能

・展示本…阿南中央図書館(仮称)の「蔵書」を、両読書テラスにてテーマ別に展示し、これら「蔵書」については両読書テラスカウンターで「貸出・返却可能」です。

両読書テラスにおいて3,000冊～5,000冊を想定しています。

・予約本…予約した図書を両読書テラスのカウンターでも「貸出・返却可能」です。

移管対象外となった本の活用策

那賀川・羽ノ浦図書館が所蔵する本については、中央図書館に移管する本とそれ以外の本に分別を行います。

移管対象外の本については可能な限り活用を検討しています。

(例示)…新聞・雑誌、絵本、画集、辞典、図鑑などをおはなしコーナーや自習スペースに設置

③ 新たに導入する機能

新たに導入する機能は、意見募集や要望書の中にあった機能をもとに「子育て支援機能」・「官民連携機能」・「市民交流機能」の3つの機能を軸とし、那賀川・羽ノ浦それぞれの地区の特色やニーズに合わせた機能を新たに導入することで、那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方の具現化を目指します。

意見募集・要望書

- ・子育て広場や学童保育等のスペース
- ・若者も高齢者も利用できるeスポーツ
- ・本・雑貨・知育道具等の販売
- ・おしゃべり、飲食ができるコーナー
- ・俳句・短歌などの創作活動ができるスペース
- ・マルシェを開催し、賑わいづくり
- ・読書に興味がない人の居場所づくり



阿南市として

子育て支援機能

官民連携機能
(物販など)

市民交流機能

3つの機能を軸とし、那賀川・羽ノ浦それぞれの地区の特色やニーズに合わせた機能を新たに導入することで、那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方を具現化していきます。

新たに導入する機能 具体案

新規機能の導入にあたっては、存続機能とのゾーニングを明確に行います。

また、おはなし会活動との相乗効果は基より、那賀川図書館では庭園や那賀川町複合施設との連携を考慮し、羽ノ浦図書館では情報文化センターのホール、支所や公民館との連携を考慮します。

那賀川読書テラス(仮称)

キッズコーナー

- 雨の日でも遊べる屋内型子どもの遊び広場
- 誰もが一緒に利用しやすいように設計されたインクルーシブ遊具を設置

憩いのスペース

- おはなしコーナーとシームレスにつながる空間
- おはなしコーナーを利用する子どもを見ながら子育て世代の交流が可能

羽ノ浦読書テラス(仮称)

市民交流テラス

- ワークショップや市民の活動に活用が可能

グループワーク室

- 複数人グループによる読書や学習が可能

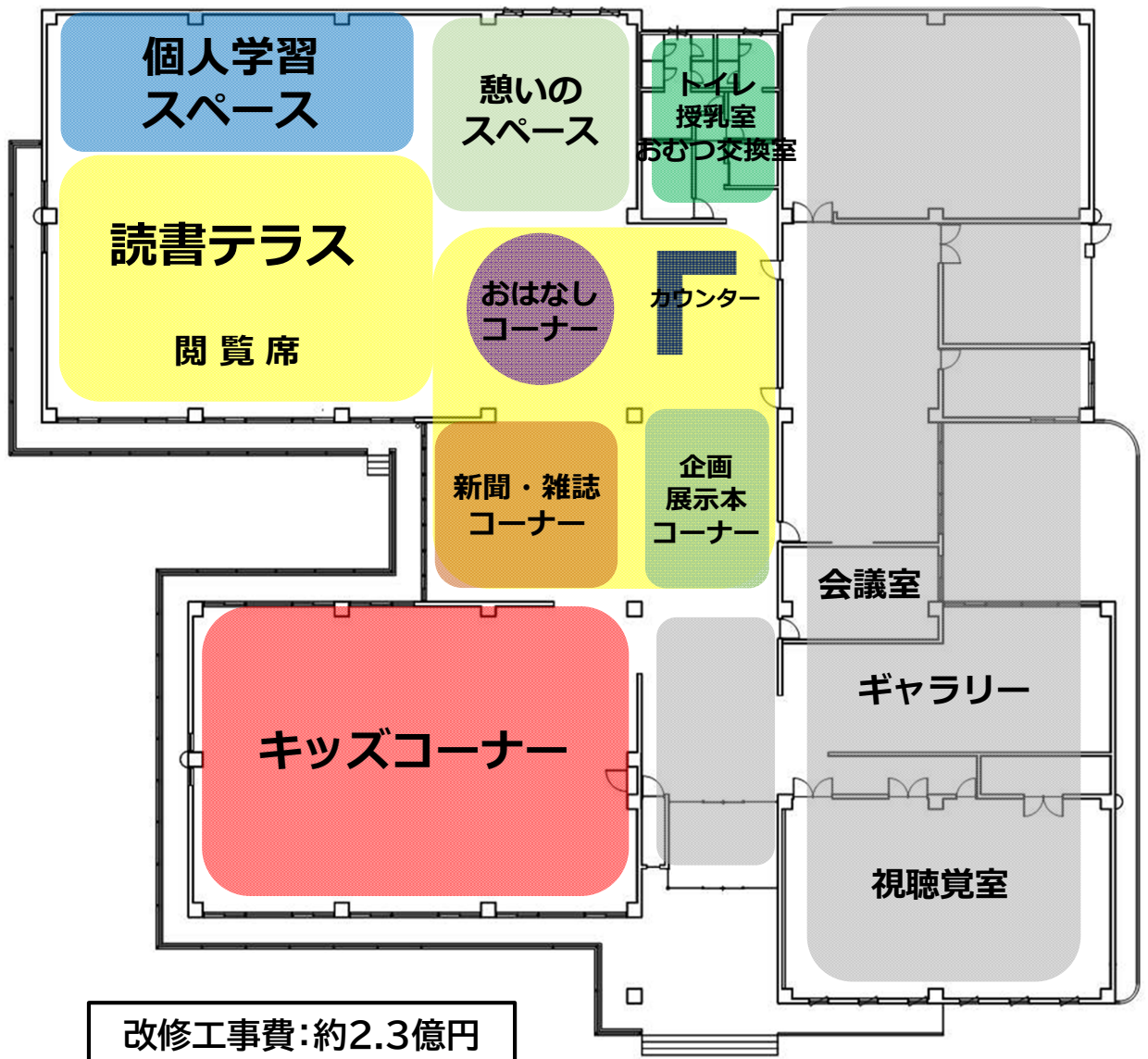
防災拠点

- 避難所としての活用や非常食・資機材等を備蓄

両館共通

上記導入に併せて、両館共に次の機能を考慮

- ・官民連携機能:本や飲食物、雑貨等を販売できるコーナー(日替わり、週替わり)
- ・市民交流機能:飲食可能なスペースや多少音が出てもいいスペース



○読書テラス

読書機能、おはなしコーナー、
新聞・雑誌コーナー
ブラウジングスペース
司書の配置(レファレンス機能)
貸出・返却・予約機能

○個人学習スペース

静かな環境の中での読書や学習

○キッズコーナー

雨の日でも遊べる屋内型こどもの遊び場
誰もが一緒に利用しやすいように設計された
インクルーシブ遊具の設置

○憩いのスペース

子育て世代の交流の場

○既存スペース

視聴覚室・・・貸室やイベント等オープンスペース
ギャラリー・・・物販や作品展示等公民連携スペース
会議室・・・貸室やクールダウンスペース

○その他

トイレの洋式化
授乳室・おむつ交換室の設置



改修工事費:約1.5億円

○読書テラス

読書機能、おはなしコーナー、
新聞・雑誌コーナー
ブラウジングスペース
司書の配置(レファレンス機能)
貸出・返却・予約機能

○市民交流テラス

ワークショップや市民の活動に活用

○憩いのスペース

多世代の交流の場

○個人学習スペース

静かな環境の中での読書や学習

○その他

古文書・歴史資料等の保管・整理(閉架書庫)
授乳室・おむつ交換室の設置

○グループワーク室

複数人グループによる読書や学習

運営体制

運営手法については、市による直営、指定管理、民間委託などの運営手法を検討することで、効率的な運営を図ります。

また、人員体制については、現在、那賀川図書館に15名、羽ノ浦図書館に7名の職員を配置していますが、新たなあり方である那賀川読書テラスでは、カウンターを運営する人員とキッズエリア、その他のスペースを管理する人員体制が必要なことから司書を含む4名、羽ノ浦読書テラスでは、カウンターを運営する人員体制が必要なことから司書を含む3名の人員体制を想定しています。

改修費用(概算)

改修費用については、改修工事に合わせて屋内の老朽化対策を実施することも想定し、市が発注した改修工事の実績から概算額を算出しています。

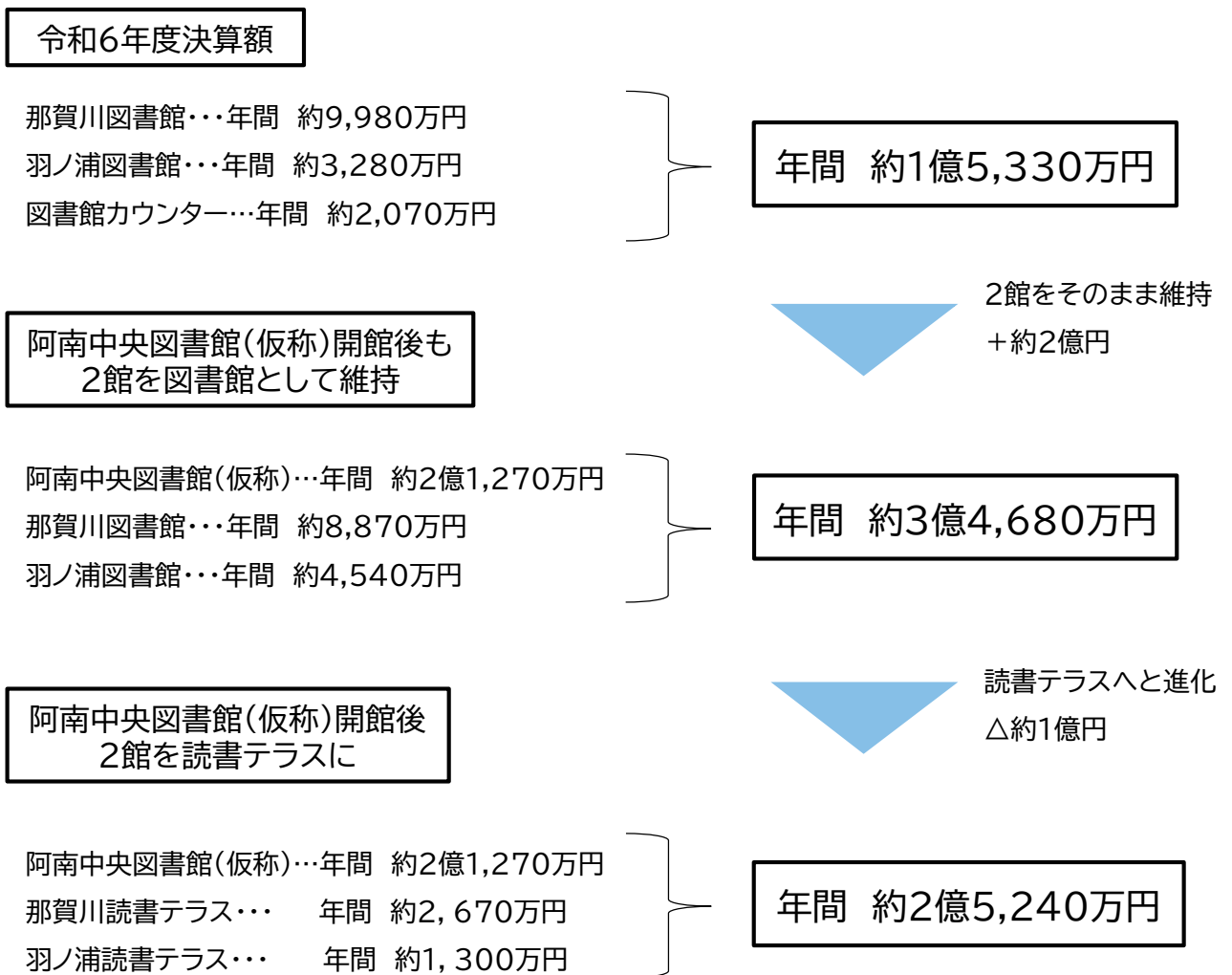
改修費用の概算額は、那賀川読書テラスが約2.3億円、羽ノ浦読書テラスが約1.5億円で合計約3.8億円と試算しており、那賀川・羽ノ浦両読書テラスの改修工事費用についても有利な財源の活用が不可欠となっています。

維持管理費(概算)

維持管理費については、令和6年度決算額では約1億5,330万円でしたが、阿南中央図書館(仮称)開館後も那賀川・羽ノ浦図書館を維持すると約3億4,680万円の維持管理費が必要となり、約2億円の増額と試算しています。

阿南中央図書館(仮称)開館後に那賀川・羽ノ浦図書館を読書テラスへ進化させることで、維持管理費は約2億5,240万円となり、約1億円の経費削減が可能と試算しています。

一方で、令和6年度決算額と比較すると約9,900万円の増額となることから、教育委員会、市長部局を合わせた、不断の行財政改革による費用の捻出が不可欠となります。



改修費用における有利な財源の確保

読書テラスへの改修費用についても有利な財源の確保が不可欠なことから、「公共施設等適正管理推進事業債」の転用事業の活用することにより、最大限市の負担軽減を図ります。

公共施設等適正管理推進事業債(転用事業)(充当率90%、交付税措置30%~50%)

- ・個別施設計画に位置づけられた施設の転用事業が対象
- ・施設全体ではなく、一部を転用する場合も対象となる

行財政改革による費用の捻出

現在、本市では、小中学校の再編や公共施設の除却及び売却の促進、施設のあり方の検討など、全庁一体となった行財政改革の促進による公共施設の再編・最適化を実現することで、持続可能な行財政改革を目指し、必要とされている行政サービスの維持を目指します。

改修時期

改修時期については、阿南中央図書館(仮称)整備の進捗状況や令和8年度改定予定である「公共施設等総合管理計画」の見直しによる市全体の公共施設の今後のあり方を踏まえつつ、できる限り早い時期の改修を計画します。

那賀川・羽ノ浦図書館の位置付け

現在、本市では阿南市立図書館条例を制定し、那賀川図書館・羽ノ浦図書館を阿南市の図書館と位置付けています。

阿南中央図書館(仮称)が整備されるタイミングを捉え、那賀川・羽ノ浦両図書館を子育て支援機能を導入した「新しい公共空間」へと進化させ、その進化した姿に相応しい「新たな設置管理条例」を制定する必要があります。

3 「阿南『読書テラス』ネットワーク」の構築

小中学校や公民館、科学センター等の多様な施設との連携を強化することで、公共施設の「読書テラス」だけでなく、市民協働の「施設読書テラス」の設置へ向けた取り組みを目指すことで、市内全域において様々なスタイルの「読書テラス」づくりを行っていきます。

小中学校

子どもの読書習慣の確立に向けた働きかけを強化

- ・学習支援(授業内容に沿った資料の貸出)
- ・学校図書館システムの導入(R7年度:中野島小学校・見能林小学校・阿南中学校)

公民館

科学センター等

R7年度 各施設における読書環境の状況調査を開始
各施設が所有している本を取りまとめリスト化



R8年度 市内数カ所に読書テラスの「モデル施設」を設置

- ・施設の利用者ニーズに合わせた選書・資料収集
- ・新たな展示スペース
- ・利用される工夫(POPづくり、リスト作成)

1 公共施設の最適化

課題:「人口減少の進行」を見据えた「公共施設のあり方(施設数、規模等)」の検討が必要

那賀川図書館(耐用年数50年、築32年)、羽ノ浦図書館(耐用年数47年、築31年)は共に築30年を超えていることから、施設内外の老朽化対策を適切に講じるとともに、市民の声を反映し読書テラスへと進化させます。

また、阿南中央図書館(仮称)(3,500㎡想定)の整備に合わせて、阿南図書館(1,549㎡)、市民会館(4,320㎡)を除却することにより、公共施設の総面積が40%程度(2,369㎡)縮減されます。

あわせて、民間事業者活用などを検討するとともに、本市全体の公共施設再編、運用の見直しの推進を行っていくことで、公共施設にかかるランニングコストの逡減を図ります。

2 図書館に関する「限られた資源」の有効活用

課題:ひと(司書の配置)・モノ(蔵書の整備)・情報(ICT化の推進)などの検討が必要

阿南中央図書館(仮称)の効用を最大限発揮するために、司書、蔵書、情報などを可能な限り一箇所に集約させます。

また、那賀川・羽ノ浦両テラスにおいても資源を活用することで、市民サービスの拡充に寄与します。

例えば、阿南中央図書館(仮称)とオンライン連携によるレファレンスサービスの提供や、図書館カウンター方式の導入により、阿南中央図書館(仮称)の蔵書の検索・予約が行え、蔵書の貸出・返却も可能となります。

3 図書館固有の課題

課題:より多くの市民に利用される施設へ進化
抜本的な長寿命化対策が不可欠

図書サービスの質の向上や市民ニーズに対応しうるサービスを提供することにより、従来よりも、幅広く、より多くの皆さまに日常的に利用していただける施設へと進化させます。

また、那賀川・羽ノ浦両図書館は建築から30年以上が経過していることから、読書テラス整備の機会に、施設改修・長寿命化改修を一体的・効率的に実施します。

4 阿南中央図書館(仮称)建設費(約40億円)の財源確保

課題:国補助金や有利な地方債を活用することが不可欠
「最大約29億円の国支援」が見込めることを市民にご理解いただくことが必要

阿南中央図書館(仮称)の整備に要するイニシャルコストについては、市の負担を可能な限り、平準化及び逡減する取り組みが不可欠なことから、市の将来にとって有利な財源である「都市構造再編集中支援事業」・「公共施設等適正管理推進事業債」を活用します。

意見募集や要望書、図書館協議会、市民説明会等での意見交換会でいただいた市民の皆さまの知恵や工夫を本構想に反映し、このたび、本構想の具現化策を発表することで、令和8年度以降本格的に本構想の推進を行います。

また、「那賀川・羽ノ浦両図書館の新たなあり方の具現化」、「市の将来にとって有利な財源の確保」を確かなものとするとともに、全庁一体となった行財政改革に取り組み、図書館が抱えている課題の解決を図ります。

そして、阿南中央図書館(仮称)整備を好機とし、これまで培われてきた「阿南の図書文化」を進化させながら、将来世代に引き継ぎ、市民がいつでも、誰でも気軽に集い、図書に親しみ学び合えるまちづくりを目指します。